

令和元年度

全国学力・学習状況調査結果について

本年度も4月末に「平成31年度全国学力・学習状況調査」が実施されました。その結果とそれを受けた取り組みについてお知らせします。

調査の目的は、児童生徒の学力の状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育の成果と課題を明確にし、学力向上の取り組みを充実させることにあります。

調査の内容は、学習意欲や学習方法・学習環境などに関する調査と教科に関する調査（今年度は理科及びAB領域がなく、国語科と算数科を1つずつ実施）です。

【質問紙による学習意欲や学習方法・学習環境などに関する調査結果】

※ 調査結果 ○：全国標準を上回っている ●：全国標準を下回っている

- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。
- 学校に行くのは楽しいと思えますか。
- 外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思えますか。
- あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思えますか。
- 朝食を毎日、ほぼ毎日摂っていますか。
- 毎日同じ時刻に寝て（起きて）いますか。
- 自分にはよいところがあると思えますか。
- 学級みんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか。
- 学校に行くのは楽しいと思えますか。
- 今住んでいる地域行事に参加していますか。
- 国語の勉強は好きですか。
- 算数の勉強は好きですか。

あきらめずに粘り強く取り組むことのよさや意義を理解していますが、実践には生かし切れていないようです。また、自分のよさに気づかず、自己有用(肯定)観を持っていない課題もあるようです。

学習面では国語や算数の学習が好きという児童が少なく、家庭学習の習慣がまだ身につけていない児童もいるようです。

今後は児童の自尊感情を高め、みんなで話し合ったり、協力したりして成し遂げたという成功体験を増やし、学習面でも「もっと知りたい」「勉強が楽しい」と言える児童が増える、授業改善に取り組んでいきます。

【教科に関する調査結果】 ※全国標準と比べて

<国語> 全国平均と同程度である

- 読むこと ○ 話すこと 聞くこと
- 書くこと ● 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

文章を読み取る力については、ほぼ全国平均と同程度であるという結果が出ました。読書や日ごろの学習の成果が表れてきたと考えます。しかし、理由を答える問題や自分の考えを書く問題には、無回答も多く課題が見られます。また、漢字についても、練習した読み方や使い方だと答えられますが、場面が変わったり、文章の中で問われたりすると難しいようです。

日頃から生活の中でも漢字や慣用句などを意識していけるように指導していきます。また、印をつけながら文章を読み取るスキルを身につけるとともに、自分の考えを適切に接続語を使って、内容を分けながら言葉に表したり、与えられた視点をもとに文章化したりする機会を増やしていきながら、国語への関心を高めていきます。

<算数> 全国平均と比べ努力を要する

- 図形
- 量と測定 ● 数と計算 ● 数量関係

図形においてはほぼ全国平均と同程度であるという結果が出ました。また、基本的な四則計算は、概ね理解していますが、計算の仕方を自分の言葉で説明したり、理由を答えたりする問題には無回答が多く課題が見られます。また、文章問題の意図を理解することや、応用的に考えることにも課題が見られます。

図や数直線に表すことで、題意を理解しながら解き進むことができるように指導していきます。また、問題の解き方が「わかった」で終わることなく、「できた」と実感できるように、定着を目指して繰り返し練習に取り組みながら、算数への関心を高めていきます。さらに、学習時間中に適応問題に取り組めるような過程を仕組んでいくようにします。